

発達障害を持つ学生への 対応について

講師

やすもと医院（心療内科・精神科）院長

安本 真由美 氏

最近話題の発達障害「自閉スペクトラム症」とは、その特徴があればすぐに障害診断に結びつくわけではありません。発達障害の特徴が全くない人はいないと断言します。必ず、何かしらの発達障害に当てはまるような個性を持っています。自閉スペクトラムの特性は「発達や能力に凹凸がある」と表現できます。そして「凹凸のために効率が悪い」ことが一番の特徴です。持っている能力を効率よく発揮できないので、能力があるのに出来ることが少なく見えます。この効率の悪さは、学業などの面だけでなく、身体面にも認められます。凹凸だけなら障害ではなく個性です。その特徴を持った人に何らかの負荷がかかり、適応に障害を生ずる様な状態を呈し、日常生活、社会生活上に支障がある場合、何らかの支援や医療が必要となるので、「障害」と診断します。その人の基本に発達障害の特性があり、その人の悩みには、発達特性が大きく影響を与えていることを理解して支援や治療を行う必要があります。発達特性があることを理解し、配慮することが大切です。

診断をつけるために特性を見つけるのではなく、生き辛さを少しでも減らすため、特性があることに気づくため、特性探しのお手伝いのために診断があります。自分らしさを発見するスタートです。

精神的疾患や障害は、往々にして、普段の会話の中で「あの人躁鬱や」とか「あの人アスペや」などと言われがちですが、診断名は診断を付けた後に、次にどう対策するのかを考えずして、口にははいけないことも是非理解して下さい。

日時 平成29年12月19日(火)14時40分～16時10分
場所 K126教室
対象 教職員